

蒼葉

裾野市立深良中学校だより

平成26年3月28日発行

第40号

発行人 校長 鈴木史良

3年生37名の巣立ち

—— 新たな世界に大きく羽ばたく深中生 ——

3月20日（木）、杉田教育委員様をはじめ、多くのご来賓をお迎えし、本校第67回卒業証書授与式が粛々と挙行されました。義務教育すべての課程を修了した3年生37名は、わずかな緊張はあったものの堂々と自信にあふれる態度で卒業証書を受けとり、在校生も3年生の一挙手一投足をくい入るように見つめていました。演劇「いのちの用水」のBGMとして楽曲を提供してくださったピアニスト朝木春美千氏による記念演奏は、日常とは違う世界が体育館中に広がりました。保護者の皆様も子どもたちの進学が決まり、成長の節目となる卒業式を迎えられ、感無量のことと存じます。在校生、卒業生による送

辞、答辞、卒業生や在校生による合唱もそれぞれが見事な内容で、参列者の心に響きました。

<校長式辞>より

思い起こせば3年前の4月、ドバイから着任した私はこの場で皆さんの入学を認めました。東日本大震災の被災者を思いやった入学式での誓いの言葉は今でも耳に残っています。その言葉に“地球をこれ以上不愉快な場所にしないためにも僕たちをしっかりと教育してください”という願いを汲み取った私は、海外で培った教育経験をできる限りこの深良中学校で生かしていこう、と決意しました。

様々な国、価値観をもつ人々とのかかわりが必要となるこれからの社会を生き抜いていくためには人と人との信頼が第1です。「故郷の歴史や文化を自分の言葉で語るができる人間は信頼される。」という私の経験による思いから、まず郷土の誇り深良用水についてその価値を知る生徒づくりを目指しました。入学したばかりの皆さんはそれがまさか劇につながっていくとは思ってもみなかったことでしょう。言葉というものは不思議なもので、繰り返し台詞をしゃべったり聞いたりしているうちに、その言葉が自分の血や肉となって自分の内面に取り込まれていくものです。皆さんはまだ誰も見たことのない劇の完成を信じて、自ら大きな背景画を描き、自ら張りぼての大岩を作り、かつらや衣装を着けての本格的な稽古に励んできました。そして迎えた一昨年2月、富士山の日に披露された演劇「いのちの用水」。誰もが思い描いていたものより百倍もすばらしい劇になりました。その後、下級生たちに引き継がれましたが、劇の先駆者としての



3年間の思いを込めて式に臨む3年生



卒業証書授与の緊張の一瞬



朝木氏の記念演奏

皆さんの輝きは深良中の歴史に残ることでしょう。

「何のために学ぶのかを知るために、今どんな社会を生活しているかを問う。」

郷土の先人たちの歴史を学んだ皆さんは、次のステップとして現代の社会について社会見学や職場体験をとおして学びました。グローバル・アイでは毎日新聞記事を読み続け、社会の様々な動きについて知り、疑問をもち、自分の意見を形成していきました。自ら問いをもつことは本物の学びへと導いてくれます。この姿勢は、皆さんの毎日の授業や生徒会活動、蒼葉祭等の大きな行事に生かされました。仲間同士でかわり合い、時には悲しみ、時には喜びを分かち合いながら一步一步着実に成長してきました。思い出の中体連、合唱祭を終え、皆さんの発表した未来への提言は、3年間の成長を如実に物語るすばらしいものでした。

「教育とは未来をつくる営みである」とするならば、未来をたくましく生き抜く若い世代を育てるためには、地球の現状を知り、人々と協力し合って少しでも住みやすい地球にするという、国や民族を超えたグローバルな視点が不可欠だと考えます。今、皆さんのような若い世代が、地域に軸足を置き、持続可能な社会づくりを形成できる人間に育ってほしいと願ってやみません。

私はある時、ふと校歌のなかにも同じ思いが謳われていることに気がつきました。それは校歌4番の「祖先の偉業を受け継ぎて やがて背負わんわが町を わが国を」というくだりです。地域に暮らしつつも、視野は広く世界を見つめ、自分にできることを確実に果たしていく、まさに Stay Local Stay Global の精神と言えましょう。



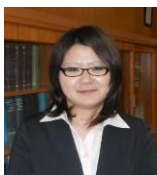
も 萌ゆる春 深良の山の^{まなびや}学舎に 巣立ちし子らの はばたき聞こゆ

離任される先生方



小松美奈子先生(富岡中へ)

深中での5年間は本当にあっという間でした。明るく素直で、何にでも一所懸命な皆さんに元気をもらいました。「いのちの用水」劇をはじめ、深中には誇れるものがたくさんあります。これからも皆さんの活躍を楽しみにしています。



山口裕加先生(須山中へ)

1年は31536000秒、3年間だと94608000秒にもなります。蒼葉祭はもちろん毎日の授業や部活動、休み時間など充実した9千万秒を過ごすことができたのは深中生の皆さんと出会えたからです。ありがとうございました。



井草浩子先生(富岡中へ)

在職中はたいへんお世話になりました。緑あふれる深良中で過ごした5年間はたくさんの思い出があります。素直で優しい子どもたちと接し、とてもうれしく感じました。これからも健やかな成長を願っています。



庄司あゆみ先生(市役所へ)

朝「おはよう」と挨拶するのを毎日楽しみに学校へ来ていました。少し話しかけると思った以上にいろいろ話してくれる人なつつこい深中の生徒さんたちとは、「いのちの用水」劇のお手伝いでふれ合えたこと、うれしく思います。



鈴木史良校長(定年退職)

教師生活最後の3年間を深良中学校の生徒たち、先生方、保護者、地域の皆様と過ごすことができてとても幸せでした。深良中でのいろいろな思い出とともに「いのちの用水」学習は私の心の中にいつまでも生き続けます。